

## 鳴子温泉地域の学校再編（統合）の考え方

### 1. 教育施設再編の必要性と統廃合の推進 ※大崎市学校教育環境整備指針より抜粋

#### 〔将来像〕

◇教育効果を高めるための将来的な標準規模の要件が満たされている。

⇒複式学級の解消，全学年1学級35人，小学校12学級以上

（1）学校での多様な人間関係を通し，互いに理解を深め，切磋琢磨しながら社会性を養っていくことができること。

（2）グループ学習や部活動，学校行事等，一定規模の集団での教育活動を支障なく実施できること。

（3）教科研究や指導の充実を図るため，教科ごとに情報交換などを行うことができるように，複数の教員が配置されていること。

◇教育課程に新たな制度が導入されている。

⇒2020年度（令和2年度）からの新学習指導要領で道徳や外国語の教科が開始された。また，小学校と中学校が義務教育の一環を形成する学校として，学習指導や生徒指導において，互いに協力し責任を共有して目的を達成する小中一貫教育，小中連携教育が実践されている。

### 2. 鳴子温泉地域の学校再編 ※大崎市学校教育環境整備指針より抜粋

①鬼首小学校を除く鳴子温泉地域の小学校の統合を検討する。

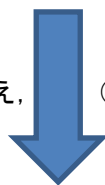
②鬼首小学校の小規模特認校制度導入を検討する。

※通学区域の弾力化により，市教育委員会が小規模校の通学区域を市全域に指定し，児童を集めやすくする制度。

③鳴子温泉地域における小中一貫教育導入の可能性を検討する。

これまでの説明会等での意見を踏まえ，

①②ではなく，鬼首小を含めて③で検討を進める



③鳴子温泉地域における小中一貫教育導入の可能性を検討する。

⇒鳴子中学校の余裕教室と一部改修等で対応し，校舎一体型の学校となり，小中一貫教育も可能となることから，鳴子温泉地域における最大規模での学校統合について長期的展望のもとに検討が望ましいと考える。